



一般社団法人 **日本LD学会**  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会 報 第134号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：AIはインクルーシブ教育の夢を見るのか？
- ・〈大会特集〉第34回大会事前講義
- ・〈連続講座1〉第2回 学びの多様性に応える通常学級の授業づくりー授業UD×UDLの可能性と課題
- ・〈連続講座2〉第13回 GIGAスクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 アクセシビリティ委員会
- ・PATIO ～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



## AIはインクルーシブ教育の夢を見るのか？

兵庫教育大学

宇 野 宏 幸

最近、AIの話題を聞くことが多くなりました。Google検索をすると、AIによる概要が冒頭に出きます。対話型の生成AIを使っている方も多いのではないのでしょうか。私も、やっとNotebookLMを活用するようになりましたが、YouTube動画や論文の要点を会話形式の流暢な音声で聞けるのは驚きとしか言いようがありません。

AIと共存する時代の風を感じて、①AIと「どうつきあっていくのか」、②AIの時代を迎えて「学びは一体どうなるのか」という2つの問いが浮かびました。また、「通常の学級における特別支援教育」やインクルーシブ教育のあり方にも、少なからず影響が出てくると考えています。

年配の方は対話型AIを情報の検索ツールとして使うことが多いのですが、若者は相談相手と位置づけているようです。丁寧に応答してくれますし、こちらを気遣っていると感じることもあります。AI依存症という言葉すら出てきています。イギリスなどでは、民主主義社会を担うより良き市民を育てるシチズンシップ教育がおこなわれて

きました。これからは、AI社会と上手くつきあっていくためのデジタル・シチズンシップ教育が大切となることでしょう。

学校を取り巻く状況で、課題の一つが不登校でしょうか。2023年度の不登校の小中学生の数は約34万6千人となっており、過去最多を記録しました。中学生と比較して、小学生の増加割合が高いのも、ここ数年の特徴です。不登校には発達障害が絡んでいることも多いのですが、その原因は様々です。学校側の要因として、社会が複雑化して人々の価値観も多様化するなかで、画一的な教育となっていることが指摘されています。個々の子どもの志向・特性にフィットした学びを提供していくために、AIの力は大きな助けとなるでしょう。

近い将来、AIが人の創造性に近いものを獲得してしまうかもしれません。だからこそ、すべての人にとって自分にしかない経験から生まれる学びがより大切なものとなり、その人らしい表現やユニークな発想が大きな価値を持つようになるかもしれません。